

# 瀬底の海「魚いっぱいだ」

## 本部5・6年生 水中体験で歓声

【本部】町立瀬底小学校（島袋ゆかり校長）の5・6年生が10日、瀬底島の北西の海でシュノーケリング体験を楽しみ、地元の自然の豊かさを体感した。水中で出会うサンゴやクマノミ、ウミヘビなどの生き物に目を輝かせた。8日には島の周辺の海の生態系や成り立ちなどを事前に学習した。

### 生態系学び自然体験



⑤カラフルな魚やサンゴの観察を楽しんだ瀬底小の児童ら。10日、瀬底島の北西の海（提供）⑥シュノーケリング体験に向かう瀬底小の児童ら

シュノーケリング体験は約半数が初めての体験で緊張した様子だったが、いざ水中に潜ると「魚がいっぱいいる」「サンゴだ！」と大興奮の様子。上間琉夏さん（10）は「魚がカラフルだった。クマノミもいた」とにっこり。上地琉希

さん（11）は「ウミヘビが呼吸しているのが見えた。今後はマグロを見てみたい」と目を輝かせた。

案内した自然体験うみゆくの千野精一代表は「子どもたちは瀬底の魅力を知って、それを地元から発信してほしい。瀬底のことが大好きになってもえれば」と期待した。

アー瀬底島の関口正樹代表は「子ども頃から住んでいる場所の自然を見て、守ろうという気持ちを持ってもらえたらうれしい。ダイビング業者とPTAが協力していきたい」と話した。

事前講話では、地元インストラクターの武方雅人さんの指導で子どもたちが実際の器具を着用。「重たい」「キツイ」「すごい」などの声が上がった。サンゴについてのクイズやじゃんけんゲームで、沖縄の海の現状などを学んだ。

同席した元琉球大学瀬底研究施設技術職員で現在、沖縄科学技術大学院大学の中野義勝さんは「自分たちの大好きなふるさとをどうやったら楽しく守れるかを考えてほしい」と語った。

（仲間里枝通信員、北部報道部・嶋銘悠）